春夜宴二桃李園一序　―訓読―

夫れ天地は万物の逆旅にして、光陰は百代の過客なり。而して浮生は夢のごとし。歓を為すこと幾何ぞ。古人燭を秉りて夜遊ぶ、良に以有るなり。況んや陽春我を召くに煙景を以てし、大塊我に仮すに文章を以てするをや。桃李の芳園に会して、天倫の楽事を序す。群季の俊秀は、皆恵連たり。吾人の詠歌は、独り康楽に慚づ。幽賞未だ已まず、高談転た清し。瓊筵を開きて以て華に坐し、羽觴を飛ばして月に酔ふ。佳作有らずんば、何ぞ雅懐を伸べん。如し詩成らずんば、罰は金谷の酒数に依らん。